



分析なくして化学工業は成り立たず

堀場雅夫 Masao HORIBA

株式会社堀場製作所 最高顧問



1945年8月、太平洋戦争に敗北した日本は、大学における原子核物理学の研究も禁止され、核物理の研究者に憧れていた私の夢も消え去った。

3年生になったばかりの私は、プライベートの研究所を設立。学外で卒論を作り、教室の復帰を待ったが研究禁令は解かれず、ベンチャービジネスの道を歩む決心を固めた。当時、エレクトロニクス分野で品質が最悪であった電解コンデンサーの改良を手掛け、品質管理を徹底することにより画期的な製品の試作に成功するも、突如として起こった朝鮮事変による急激なインフレで、事業化の目途が立たず、コンデンサー生産管理用に自社開発した分析計のメーカーとして、小資本でスタートしたのが現在の株式会社堀場製作所である。正直なところ、今でこそ分析計の世界企業 HORIBA と言っているが、スタートの動機は苦し紛れの選択であった。しかし、いったん分析専門メーカーとして立ち上がったからには、既存の企業と一味違う存在感のある世界企業の仲間入りをしたいと決心した。さらに、液体分析に次いでガス分析を手がけるにあたっては、当時、ガスクロ全盛時代、超高速分析を売り物に非分散型赤外ガス分析を完成させた。現在でも主力製品として活躍している内燃機関の排ガス分析で世界市場 80% を手中に収めた。

固体の分析については、蛍光 X 線元素分析にエネルギーを集中、電子顕微鏡一体型を完成、広い分野で現在も活躍している。

私達の分析機器業界は、「分析なくして化学工業は成り立たず」という精神で、物質の本質を捉える最善最高の方式を模索、一方において、分析器の十分条件として必要なハイレスポンス、ハイクオリティ、メンテナンスフリー、コストパフォーマンスという矛盾とも思われる条件を、逃げずに正面から問題解決に日夜努力している。分析器は、以前は化学工業を進めるにあたって、収率の向上や品質管理等に脇役として利用されていたが、近年は新しい科学、技術によって今まで不可能であった物質の定性、定量が可能となり、新産業の創出に大きな力を発揮している。

若い研究者も正面から問題点に挑戦して欲しい！！

© 2013 The Chemical Society of Japan